

肺癌術後気管支断端瘻の超高リスク群を検出するための 多施設共同後向き観察研究

〔1〕組織

代表者：鈴木 弘之
(福島県立医科大学呼吸器外科学講座)
対応者：野津田 泰嗣
(東北大学加齢医学研究所)
分担者：松村 勇輝
(福島県立医科大学呼吸器外科学講座)

研究費：物件費 3,400 円，旅費 96,600 円

〔2〕研究経過

肺癌手術後の気管支断端瘻（BPF）は稀ではあるが、重大な合併症であり、発生すると患者の生活の質（QOL）が著しく低下し、長期的な管理が必要となる。

本研究では、東北呼吸器外科臨床研究グループ（JNETS）の統括施設として、胸部悪性疾患におけるデータベースを使用した多施設共同後向き観察研究を立ち上げ、このデータベースを使用して、BPFの超高リスク群を特定し、リスク評価の精度向上を図ることで、術前・術中の管理および予防的対応を改善することを目的とする。

福島県立医大内での症例検討

- 2012-21年
- 男性、特定の術式（右下切，右中下切，右もしくは左肺全摘）
- 132例中BPF 6例（4.5%）

		被覆あり		被覆なし		p
		n=38		n=94		
被覆	有茎脂肪織	25	66%			
	遊離脂肪織	13	34%			
術式	右下葉切除	24	63%	86	91%	<0.01
	右中下葉切除	4	11%	8	9%	
	右肺全摘	3	8%	0		
	左肺全摘	6	16%	0		
BPF NCD risk (中央値)		1.96 %		1.21 %		<0.01
BPFあり		2 (5.3%)		4 (4.2%)		

これまで研究打ち合わせ（ミーティング）を約3ヵ月に1回程度の割合で開催した。ミーティングのメンバーは研究者・分担者のほか、呼吸器外科医師のコアメンバー計6名で行い、研究の進捗状況の確認および実施計画について話し合われた。

〔3〕成果

（3-1）研究成果

本年度は、以下に示す研究成果を得た。

まず第1に、東北呼吸器外科臨床研究グループ

（JNETS）より、期限を決めて、下記のデータ収集を行った。

・術前調査項目：年齢，性別，体重，身長，喫煙歴，生活歴，内服薬，術前合併症，気管支鏡検査情報，術前肺機能，術前画像所見，術前血液検査値，臨床病期データ，術前栄養評価，術前治療の有無と内容，効果，初診日，検査日，入院日，手術日，退院日などの日付。

・手術調査項目：術式，手術時間，麻酔時間，手術中の投与薬剤，麻酔中の人工呼吸器の設定，出血量，輸血量，輸液量，体外循環の有無と種類，術中迅速診断の有無とその結果

・周術期調査項目：周術期身体所見，周術期画像所見，周術期血液検査値，術後内服薬，術後注射薬，疼痛管理の評価，集中治療室滞在日数，入院期間，周術期合併症，周術期栄養評価

・術後調査項目：術後身体所見，術後画像所見，術後血液検査値，慢性期合併症，術後病理病期データ（遺伝子変異検索，免疫チェックポイント分子発現検索のための免疫組織染色データを含む），再発の有無と再発形式，術後治療の有無と内容，無再発生存期間，全生存期間，術後栄養評価

差は認められなかった。
JNETS 研究分担施設は16施設となり、延べ10300例の症例集積を完了した。

（3-2）波及効果と発展性など

上記のデータ集積には依然として欠損値も多く、クエリの作成とデータのクリーニングが必須な状況ではあるものの、得られた情報量は膨大であり、本研究テーマだけでなく、数多くの後向き観察研究計画が現在立ち上がっている過程にある。本研究で期待される成果は下記のとおりである。

1. 肺癌術後の気管支断端瘻（BPF）の超高リスク群を明確に定義することで、術前評価および予防的被覆術の適応が改善される。

2. BPF の高リスク患者に対する予防的被覆術の効果が再評価される可能性がある.
3. 将来的には被覆術の有効性を前向き研究で検証するための基盤データが得られる.

〔4〕 成果資料

今年度中に本共同研究で研究された学会発表、論文発表等はない。